銀行破綻に備える、賢い預金の保護戦略

FDIC保険の活用からリスク分散まで、大切な資産を守るための実践的なガイドをご紹介します。



米国銀行セクターの現状とリスク



無保険預金のリスク

多くの銀行では、FDIC保険の上限（25万ドル）を超える無保険預金が総預金の**半分以上**を占めています。これは金融不安時に資金が流出しやすく、銀行経営を圧迫するリスク要因となっています。

流動性リスク

金利上昇により銀行が保有する債券の市場価値が下落し、**含み損**が発生しています。これは銀行の自己資本を圧迫し、突発的な預金流出に対応する能力を低下させる可能性があります。

資産品質のリスク

コロナ禍以降のリモートワーク普及により、商業用不動産市場が低迷し、CRE向け融資の**焦げ付きリスク**が高まっています。地方銀行ほどこの影響を受けやすい傾向があります。

米国銀行セクターは全体的に回復力を示していますが、これらの特定の脆弱性に注意が必要です。継続的なリスク監視と、銀行による流動性管理の強化が不可欠となっています。

銀行が直面する課題：金利上昇の影響

影の側面：保有債券の価値下落

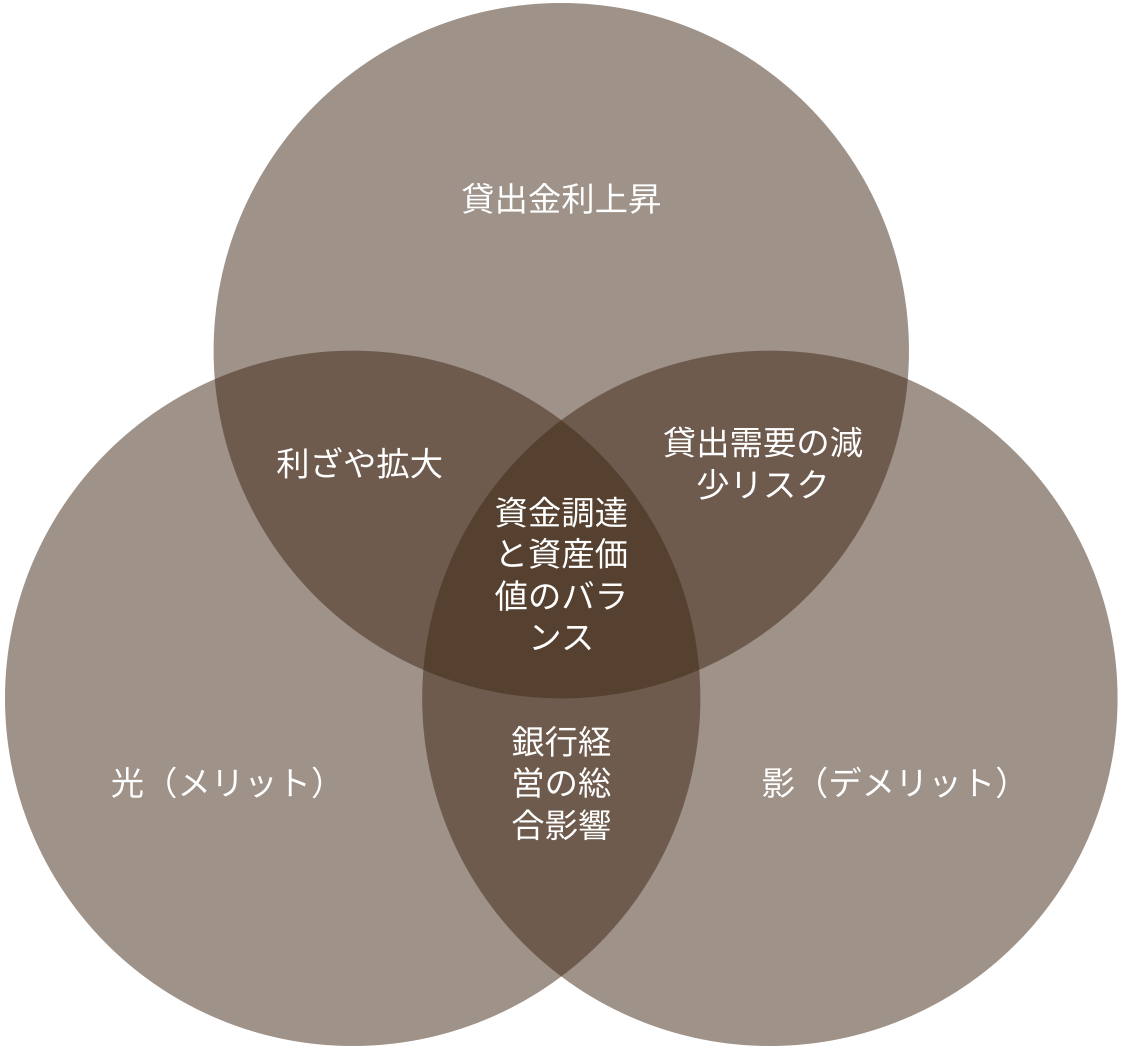
金利が上昇すると、銀行が保有する既存の低金利債券の市場価格が下落し、巨額の**「含み損」**が発生します。ハワイの銀行の例として、ファースト・ハワイアン・バンク（FHB）やバンク・オブ・ハワイ（BOH）も、数十億ドル規模の債券を保有しており、この影響を受けています。

これは銀行の自己資本を圧迫し、経営の柔軟性を低下させる可能性があります。

光の側面：貸出による収益の増加

一方で、金利上昇は銀行の本業である「貸付」の収益性を高めます。新規のローン金利が上昇し、預金金利との差（純金利マージン）が拡大するため、利益が増加します。

ハワイの主要銀行は、強力な貸出収益（光）で、債券の含み損（影）をカバーし、全体として利益を伸ばしています。その背景には、安定した預金基盤と潤沢な流動性があります。



米銀の無保険預金率の比較



カテゴリ	銀行例	無保険預金率	主な顧客層と特徴
金融サービス企業	バンク・オブ・ニューヨーク・メロン	**約90%**	構造的に比率が高い。大企業や機関投資家が中心。
大手商業銀行	JPモルガン・チェース	約48%	法人金融や富裕層向けサービスが比率を押し上げる。
地方銀行（ハワイ）	バンク・オブ・ハワイ	約42%	**安定性が高い。**地域の個人・中小企業が中心。
地方銀行（ハワイ）	ファースト・ハワイアン・バンク	約34%	同上。預金基盤が非常に安定的。

ビジネスモデルが預金構造にどう反映されるかを示す表です。ハワイの銀行は、無保険預金率が大手行に比べて著しく低く、預金基盤が安定しているため、金融不安に対する耐性が高いと言えます。これは個人投資家にとって、銀行選びの重要な判断材料となります。

無保険預金率が高い銀行ほど、金融市場の混乱時に預金流出リスクが高まることを認識しておきましょう。

預金保護の基本：FDIC預金保険制度



FDICとは

万が一、FDICに加盟する銀行が破綻した場合に、預金者の預金を保護する米国の政府機関です。1933年の大恐慌後に設立され、銀行システムへの信頼回復に貢献してきました。



保護金額

1預金者あたり、1銀行ごとに最大25万ドルまで保護されます。これは銀行が破綻しても、連邦政府が預金者に全額を返済することを保証するものです。



対象となる口座

普通預金、当座預金、貯蓄預金、CD（譲渡性預金）などが対象です。銀行で開設される一般的な預金口座のほとんどがカバーされています。



対象外の商品

株式、投資信託、MMF、生命保険、仮想通貨などは保護の対象外です。これらは投資商品とみなされ、FDICの保証範囲外となります。

最も重要なことは、あなたの預金が1銀行あたり25万ドル以内であれば、心配は不要だということです。銀行が破綻しても、預金は**全額保護**されます。



【実践】25万ドルを超える預金の保護戦略

名義分け（所有権カテゴリーの活用）

FDICは個人口座、共同口座、退職金口座などを**別々に保護**します。例えば夫婦の場合、夫の個人口座($250k)、妻の個人口座($250k)、夫婦の共同口座($500k)で、同じ銀行で100万ドルまで保護可能です。

複数銀行への資産分散

最もシンプルで確実な方法です。FDIC保険は「銀行ごと」に適用されます。例えば、A銀行に25万ドル、B銀行に25万ドル、C銀行に25万ドルを預ければ、合計**75万ドルが保護**されます。

CDARS®（シーダーズ）サービスの利用

一つの銀行窓口で、数百万ドル単位の預金を全額FDIC保護下に置けるサービスです。銀行が提携ネットワークを通じて預金を**自動で分割・再預金**してくれます。

米国財務省証券（T-Bills）の購入

銀行預金ではありませんが、米国政府の信用によって保証される、**世界で最も安全な資産**の一つです。短期のT-Billsなら流動性も高く、現在は高い利回りも提供しています。

これらの戦略を組み合わせることで、数百万ドル規模の預金でも、FDIC保険の保護を最大限に活用できます。あなたの資産規模や運用目的に合わせて、最適な組み合わせを検討しましょう。

預金の代替案：MMFの正しい理解

MMF（マネー・マーケット・ファンド）とは

MMFは短期金融市場で運用される投資信託で、**流動性が高く比較的安全**な投資手段です。現在は高金利環境下で、銀行預金より高い利回りを提供していることが多いです。

ただし、MMFは**FDIC保険の対象外**であることを理解しておく必要があります。銀行破綻時のように、政府による明確な保証はありません。

MMFの種類とリスク

- **政府系MMF**：米国政府の証券のみに投資。最も安全とされる
- **プライム系MMF**：企業の短期債務にも投資。やや高い利回りだがリスクも高い
- **地方債MMF**：地方自治体の債券に投資。税制優遇あり

2008年の金融危機では、一部のMMFが「元本割れ」を起こし、投資家が損失を被った事例があります。しかし、その後規制が強化され、現在は以前より安全性が向上しています。

注意点：MMFへの投資を検討する際は、運用会社の信頼性、ファンドの投資対象、手数料構造を慎重に評価しましょう。特に、「政府系MMF」は相対的に安全性が高いとされています。

まとめと今後のアクション



現状認識

金利の動きが銀行経営に与える「光と影」を理解し、無保険預金率など、**銀行の健全性を示す指標**に関心を持ちましょう。これにより、リスクの高い銀行を避けることができます。



基本の徹底

まずはFDICの保護枠（25万ドル）を最大限に活用しましょう。ほとんどの個人投資家は、この範囲内であれば**心配は不要**です。銀行が破綻しても、預金は全額保護されます。



応用戦略

保護枠を超える預金がある場合は、「名義分け」や「銀行分散」を計画的に実行しましょう。MMFなどの預金代替商品は、**リスクを正確に理解**した上で選択肢の一つとして検討してください。

あなたへの推奨アクションプラン

1. **今すぐ確認**：ご自身の預金がどの銀行に、いくらあるかを確認しましょう。
2. **リスク評価**：各銀行の健全性指標（無保険預金率など）を調査しましょう。
3. **分散計画**：必要に応じて、預金分散や名義分けの計画を立てましょう。
4. **専門家と相談**：銀行の担当者やファイナンシャル・アドバイザーに相談し、最適な保護戦略を立てましょう。